

令和 5 年 4 月 21 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00813

研究課題名(和文) 若年層の政治態度に関する理論的・実証的研究

研究課題名(英文) Theoretical and empirical study on political attitudes of young people

研究代表者

谷口 将紀 (Taniguchi, Masaki)

東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授

研究者番号：60251435

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,200,000円

研究成果の概要(和文)：選挙権年齢及び成年年齢の引き下げ並びに学習指導要領改訂の経緯及び効果に関する検討を行うと共に、世論調査を実施して若年層の政治的態様の構造を明らかにした。巷間若年層の保守化と呼ばれているものは相対得票率上の現象であり、実際に起きているのは若年層の政治的疎外又は野党離れであり、争点態度においてもハイ・ポリティクスにおける現実主義化と経済政策における現状肯定、そして社会政策におけるリベラル傾向の混合であることが分かった。以上の知見を踏まえ、論文・学会発表など個別の研究成果に加え、研究組織全体の成果として川出良枝・谷口将紀編『政治学 第2版』を研究期間の最終年度に刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、理論的および比較政治学的検討に基づき世論調査を設計し、若年層の保守化と巷間理解されてきたものとは異なる見方を実証的に提示した。これらの成果は専門書や学術誌にとどまらず、一般向けの逐次刊行物や総合雑誌、新聞などでも発表され、より広い社会的還元が図られた。さらにこうした知見を参考にしながら、新学習指導要領による社会科教育を受ける若年層を念頭に置き、より円滑な高大接続に配慮した政治学入門の教科書を刊行することにより、一定の社会的貢献を果たすことができた。

研究成果の概要(英文)：This study examined the process and effects of lowering the voting age and the age of majority, and revising the government course guidelines. We also conducted a public opinion survey to shed light on the political attitudes of the younger generation. What is commonly referred to as the "conservatization" of the younger generation refers to the relative vote share of the LDP, while what is actually occurring is political alienation or a shift away from the opposition parties. The younger generation mixes realism in high politics, affirmation of the status quo in economic policy, and liberal tendencies in social policy. Based on the above findings, in addition to individual papers and conference presentations, "Political Science, Second Edition," edited by Yoshie Kawade and Masaki Taniguchi, was published in the last year of the research period as the result of the entire research organization.

研究分野：政治学

キーワード：政治学 主権者教育 若年層

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 2015年に公職選挙法が改正され、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に、70年ぶりに引き下げられた。また、政府は成人年齢を18歳に引き下げるための民法改正案を、次期国会に提出する方針とされていた上、従来から法教育・主権者教育の推進が図られてきたところ、小・中学校・高等学校の新学習指導要領においても、高校の「公共」科目の新設をはじめ一層強化される見込みであった。

(2) 以上の社会動向に対応して、若年層に焦点を当てた政治学（及び関連諸科学）研究が注目されつつあった。しかし、当時見られた研究の多くは、一方では、政治思想史や規範理論研究における「市民教育」という観点への理念的アプローチ、他方では、投票行動論・政治参加論などの実証研究の延長線上にあって特定の世代をフィーチャーするアプローチがそれぞれ独立して行われている感があり、思想や実証といった分野間の垣根を越えた政治学の総力を挙げてこの課題にアプローチすることが求められていた。

2. 研究の目的

本研究は、政治思想を対象とする質的アプローチを採る研究者と政治過程を中心として量的研究に従事する研究者が密接に協働して、今日における若年層の政治意識及び政治参加の現在位置及び向かうべき方向性を探求した。具体的な目的としては、以下の3点が挙げられる。

(1) 従来から密接な協力関係にある思想史研究者と実証分析の研究者が合同でチームを結成することにより、そもそも「成年」とは何か、という原理的問題の考察を含め、より深い思想的裏付けを伴う調査分析などの形で若年層の政治態度を一体的に捉える。

(2) 従来の若年層研究は所謂「大学の先生」による研究成果と「現場の先生」による教育実践の対話として進められてきた。これに対して本研究は、両者の立場を知る中学・高校・大学教養教科書の編集・執筆経験のある法学部教員を中心に実施することによって、各主体による考え方の有機的な統合を図り、研究成果を社会的に実装する。

3. 研究の方法

(1) 交付内定後ただちに研究代表者及び研究分担者全員による研究会を組織し、政治思想・実証研究双方のアプローチにおける若年層の政治態度の研究動向を共有した。

(2) 選挙権年齢引き下げの影響、学習指導要領改訂の背景及び法学部又は政治経済学部に限らない大学における政治学教育の現状について、関係者から聞き取り調査を行った。

(3) 実証分析研究として、研究機関内に実施された国政選挙を利用して世論調査を行い、若年層の政治態度に関する最新の知見を得た。

(4) 以上で得られた知見をそれぞれの分野における研究成果として学界に発信すると共に、政治学に限らず、主権者教育も射程に含み、かつ、高等学校と大学を連続的に捉える視座のもと、18歳選挙権・18歳成人時代にふさわしい若年層の政治態度形成の促進方策の在り方に関する具体的提案を行った。

4. 研究成果

(1) 数次にわたる世論調査の結果、18～29歳グループの自民党相対得票率の高さにみられる投票行動における若年層の「保守化」と言われる現象を争点態度のレベルで捉えた場合、憲法改正・防衛力強化・日米安保強化・治安維持と私権制約の関係に対する態度に見られる権力観における保守性、財政政策に対する態度の代表される経済政策における現状維持志向、選択的夫婦別姓や同性婚に対する相対的賛成度の高さに象徴される伝統的社会的価値観からの自由、という必ずしも同じ方向ではない各要素を合成した結果であることが分かった。さらに、調査結果を他のデータと突合することを通じて、2012年以降、若年層における他世代と比べて顕著な自民党相対得票率の増加を指して「保守化」と呼ぶ場合には、それを裏付けるような認知面及び感情面での態度変化は見られないことも判明した。

(2) 2021年衆議院議員総選挙時に実施した有権者意識調査からは、小選挙区では立憲民主党の候補が左寄りの有権者表を固めた上で中道寄りの有権者でも自民党候補に対してそれなりに食いついてきた、すなわち接戦区が増えた一方で、比例代表では中道付近の有権者層で日本維新の会が得票率を伸ばしており、立憲民主党はポリュームゾーンの中道寄り有権者の相当部分を維新や国民民主党に侵食されたことを明らかにした。

(3) 研究期間の後半には、研究会のメンバーを研究代表者及び研究分担者に加え、政治理論・思想、国際政治、日本政治・行政を専門とする研究者に拡大した上で、研究成果のとりまとめに当たっては若年層を推進役とする情報環境の急速な変化を踏まえるべきこと、プレグジットやトランプ政権とグローバリゼーションの関係、世界各国におけるデモクラシーの後退とその理論的解釈を掘り下げるべきこと、高等学校で新設される「公共」といわゆる大学教養レベルの政治学教育との架橋を意識すべきこと等、最新の政治学教育上必要となる認識を共有した。

(4) 個別に公表した研究成果とは別途、研究組織全体の成果として、以上の知見を踏まえて『政治学 第2版』を研究期間最終年度に計画どおり刊行することができた。どのようにして政治原

理から個別争点に対する政治的立場・意見が導かれるのかを丁寧に説明することにより、高大接続をより円滑にする政治学入門のテキストとして、今後広く社会に受け入れられることを期待する次第である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Akira Igarashi, Yoshikuni Ono	4. 巻 60
2. 論文標題 The Effects of Negative and Positive Information on Attitudes toward Immigration.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Migration	6. 最初と最後の頁 137-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/imig.12916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Igarashi, Yoshikuni Ono	4. 巻 52
2. 論文標題 Neoliberal Ideology and Negative Attitudes toward Immigrants: Evidence from a Survey and Survey Experiment in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Applied Social Psychology	6. 最初と最後の頁 1146-1157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jasp.12916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dwi Krisnanto, Endra Iraman, Yoshikuni Ono, Makoto Kakinaka.	4. 巻 30
2. 論文標題 Quality of Public Governance and Voluntary Tax Payment: Experimental Evidence from Indonesia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters,	6. 最初と最後の頁 543-547
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13504851.2021.1998317	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 川出良枝, 谷口将紀	4. 巻 603
2. 論文標題 これからの政治学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口将紀, 浅野良成, 大森翔子	4. 巻 962
2. 論文標題 二〇二二年参院選 データが示す有権者の右傾化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 142-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口将紀	4. 巻 70
2. 論文標題 有権者の投票行動と日本の政治課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Voters	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田敦, 斎藤純一	4. 巻 958
2. 論文標題 リベラル政党の「可能性」と「不可能性」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 180-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川誠	4. 巻 22
2. 論文標題 代表に抗する代表制 ポピュリズムの中の代表制デモクラシー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 7-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾野嘉邦	4. 巻 136
2. 論文標題 有権者の理由、候補者の事情をデータで見る なぜ日本は女性議員が少ないのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上神貴佳	4. 巻 37
2. 論文標題 書評「竹中治堅著『コロナ危機の政治 安倍政権vs. 知事』中公新書, 2021年」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 80-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三輪洋文・谷口将紀	4. 巻 75
2. 論文標題 イデオロギーに着目した日本の青年の政治的成熟度の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 公共選択	6. 最初と最後の頁 81-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川誠	4. 巻 50
2. 論文標題 国民投票は直接民主制か？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 198-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上神貴佳	4. 巻 52
2. 論文標題 地方議会と有権者を隔てる情報の壁 統一地方選挙有権者調査の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地方議会人	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikuni Ono, Michael A. Zilis	4. 巻 66
2. 論文標題 Ascriptive Characteristics and Perceptions of Impropriety in the Rule of Law: Race, Gender, and Public Assessments of Whether Judges Can Be Impartial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 American Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12599	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Endra Iraman, Yoshikuni Ono and Makoto Kakinaka	4. 巻 42
2. 論文標題 Tax compliance and social desirability bias of taxpayers: experimental evidence from Indonesia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Public Policy	6. 最初と最後の頁 92-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0143814X21000040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 川出良枝	4. 巻 61
2. 論文標題 秘密か公開か 投票方法と民主主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voters	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川誠	4. 巻 48(17)
2. 論文標題 代表論から読むマックス・ウェーバー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 90-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上神貴佳	4. 巻 33
2. 論文標題 選挙制度は今のままでよいか 「総体としての制度改革」の構想	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ono Yoshikuni, Yamada Masahiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Do voters prefer gender stereotypic candidates? evidence from a conjoint survey experiment in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Political Science Research and Methods	6. 最初と最後の頁 477 ~ 492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/psrm.2018.41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三輪洋文・谷口将紀	4. 巻 75(3)
2. 論文標題 イデオロギーに着目した日本の青年の政治的成熟度の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公共選択	6. 最初と最後の頁 81-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Asano Taka-aki, Kaneko Tomoki, Omori Shoko, Takamiya Shusuke, Taniguchi Masaki	4. 巻 31
2. 論文標題 Predictable crises shape public opinion: evidence from the COVID-19 natural experiment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Elections, Public Opinion and Parties	6. 最初と最後の頁 311 ~ 320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17457289.2021.1924731	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川出良枝	4. 巻 20
2. 論文標題 「近代」の相対化 半澤思想史学の軌跡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 398-399
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川誠	4. 巻 110
2. 論文標題 地方自治体における「代表」概念	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川誠	4. 巻 2017年度号
2. 論文標題 石橋湛山の“対華和平思想”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本哲学と思想研究	6. 最初と最後の頁 277-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川誠	4. 巻 2019-1
2. 論文標題 非主権的政治体は可能か - 政治思想におけるcommunitas communitatumをめぐって -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 36-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚元	4. 巻 1143
2. 論文標題 ケンブリッジ学派以後の政治思想史方法論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口将紀	4. 巻 132
2. 論文標題 ポピュリズムを招く新しい『政治的疎外』の時代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 212-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口将紀	4. 巻 131
2. 論文標題 2017年東京大学谷口研究室・朝日新聞共同調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国家学会雑誌	6. 最初と最後の頁 51-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田敦	4. 巻 452
2. 論文標題 9条の意義はどこにあるのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学教室	6. 最初と最後の頁 39-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川誠	4. 巻 4
2. 論文標題 公職追放解除後の石橋湛山 - 教育者としての軌跡を中心に - (下)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学史紀要	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ono Yoshikuni, Yamada Masahiro	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Do voters prefer gender stereotypic candidates? evidence from a conjoint survey experiment in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Political Science Research and Methods	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/psrm.2018.41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ono Yoshikuni, Burden Barry C.	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 The Contingent Effects of Candidate Sex on Voter Choice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Political Behavior	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11109-018-9464-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計42件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 23件）

1. 発表者名 早川誠
2. 発表標題 いま、デモクラシーをいかに論じるか 政治理論の観点から（書評ラウンドテーブル）
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono, Yuko Kasuya, Hirofumi Miwa
2. 発表標題 Why Are There More Women in the Upper House?
3. 学会等名 Midwest Political Science Association Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 尾野嘉邦, 粕谷祐子, 三輪洋文
2. 発表標題 Why are there more women in the upper house?
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono, Tiffany Barnes, Charles Crabtree, Akitaka Matsuo
2. 発表標題 Women Use More Positive Language than Men
3. 学会等名 Society for Affective Science Preconference（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷口将紀
2. 発表標題 選挙制度改革から四半世紀を振り返って 日本政治の回顧と展望
3. 学会等名 静岡大学法政学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 早川誠
2. 発表標題 代表に抗する代表制 ポピュリズムの中の代表制デモクラシー
3. 学会等名 政治思想学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 犬塚元
2. 発表標題 ホップスは本当に多元的国制を提唱した「助言者」だったか？
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Uekami, Takayoshi, and Jyunpei Yamaguchi
2. 発表標題 Japan: Struggle for Party System Change
3. 学会等名 The International Conference on Political Parties and the Crisis of Democracy（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤勇哉・Charles Crabtree・尾野嘉邦
2. 発表標題 男性の、男性による、男性のための政治？ - Fragile Masculinityと有権者の投票行動 -
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤勇哉・尾野嘉邦
2. 発表標題 女性候補者のキャリアパスと有権者の政治行動
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Charles McClean & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 How do voters evaluate the age of politicians?
3. 学会等名 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Charles McClean & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 How do voters evaluate the age of politicians?
3. 学会等名 ECPR General Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川出良枝
2. 発表標題 普遍君主政の超克：18世紀ヨーロッパにおけるコスモポリタニズム
3. 学会等名 史学会（東京大学）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Barry Burden and Yoshikuni Ono
2. 発表標題 “Age, Misinformation, and Voting for Female Candidates”
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Charles McClean and Yoshikuni Ono
2. 発表標題 “How Do Voters Evaluate the Age of Candidates?”
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akira Igarashi, Hirofumi Miwa, and Yoshikuni Ono
2. 発表標題 “Why Do Natives Prefer High-Skilled Immigrants to Low-Skilled Immigrants? Identifying Causal Mechanisms of Immigrant Preference with A Survey Experiment”
3. 学会等名 JSQPS
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村航洋・浅野正彦・渡邊克巳・尾野嘉邦
2. 発表標題 逆相関法による政治家の顔ステレオタイプの可視化
3. 学会等名 日本認知心理学会第18回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Charles Crabtree, Akitaka Matsuo, and Yoshikuni Ono
2. 発表標題 “ Women Candidates Use More Positive Language than Men Candidates in Political Campaign ”
3. 学会等名 Asian Polmeth (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoya Yokoyama & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 The effect of irrelevant visual cues on candidate evaluation
3. 学会等名 77th Annual MPSA Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Hirofumi Miwa
2. 発表標題 Gender Differences in Electoral Campaigns under Alternative Electoral Systems: Evidence from Quantitative Text Analysis of Election Manifestos in Japan
3. 学会等名 2nd Annual POLTEXT Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiko Asano & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Candidates' Facial Attractiveness and Electoral Success
3. 学会等名 実験社会科学カンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Kagotani & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Normalizing Japan? Foreign Threats and Legislative Speeches
3. 学会等名 the 4th Pacific International Politics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Kagotani & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Diplomatic Protest and Japanese Patriotism
3. 学会等名 the ISA West Annual Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Kagotani & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Diplomatic Protest and Japanese Patriotism
3. 学会等名 the 2020 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Barry Burden & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 A Test of Three Explanation for Gender-Office Congruencyin U.S. Elections
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五十嵐彰&尾野嘉邦
2. 発表標題 Threats and Benefits of Immigrants
3. 学会等名 The 6th Asian Political Methodology Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Igarashi & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 The effects of benefits and threats of immigrants on public opinion
3. 学会等名 the 77th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Igarashi & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 The effects of benefits and threats of immigrants on public opinion
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Political Science Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五十嵐彰 & 尾野嘉邦
2. 発表標題 新自由主義と排外主義：質問紙実験による検討
3. 学会等名 第68回数理社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Igarashi & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Neoliberalism and negative attitudes toward immigrants
3. 学会等名 実験社会科学カンファレンス (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Masahiko Asano
2. 発表標題 Candidates' Physical Appearances and Electoral Success: Evidence from Japan's Upper House Elections
3. 学会等名 The Northeast Workshop in Japanese Politics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taishi Muraoka & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Legislative Networks and Ministerial Turnover: Analyzing the Impact of Social Ties on Ministerial Dismissal
3. 学会等名 The Northeast Workshop in Japanese Politics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hatsuru Morita & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Gender Stereotypes and Fairness Perception of Court Decisions: Experimental Evidence from Japan
3. 学会等名 2019 Summer Meeting of the Japanese Society for Quantitative Political Science
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Barry Burden & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Testing Alternative Explanations for Gender-Office Congruency
3. 学会等名 2nd Annual Conference on Effective Lawmaking (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Michael Zilis
2. 発表標題 Judges' Attributes and Public Support for Court Decisions
3. 学会等名 the 77th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiko Asano & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Candidates' Facial Attractiveness and Electoral Success Evidence from Japan's Upper House Elections
3. 学会等名 7th Annual Toronto Political Behaviour Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Kagotani and Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Diplomatic Protest and Japanese Patriotism
3. 学会等名 Tohoku Experimental Political Science Workshop
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾野嘉邦
2. 発表標題 ジェンダーステレオタイプと有権者の投票行動
3. 学会等名 拓殖大学拓く力・地方の課題（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾野嘉邦
2. 発表標題 ジェンダーステレオタイプと有権者の投票行動
3. 学会等名 高知工科大学フューチャーデザイン研究所公開セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Masahiko Asano
2. 発表標題 Candidate Appearance and Electoral Success: Who Can Get Away from Facial Influence in Elections?
3. 学会等名 Interdisciplinary Workshops on Politics and Policy（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Sugita
2. 発表標題 Marginalization and Theatricalization of Politics
3. 学会等名 International Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 犬塚元
2. 発表標題 いつまでスキナー頼みか：ケンブリッジ学派以後の政治思想史方法論
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計24件

1. 著者名 川出 良枝、谷口 将紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 260
3. 書名 政治学 第2版	

1. 著者名 長谷部恭男、杉田敦、加藤陽子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 歴史の逆流 時代の分水嶺を読み解く	

1. 著者名 小川公代	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 308
3. 書名 感受性とジェンダー 共感 の文化と近現代ヨーロッパ	

1. 著者名 犬塚 元、河野 有理、森川 輝一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 320
3. 書名 政治学入門	

1. 著者名 山崎 望	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 312
3. 書名 民主主義に未来はあるのか？	

1. 著者名 上神 貴佳、三浦 まり	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 284
3. 書名 日本政治の第一歩〔新版〕	

1. 著者名 川出 良枝	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 416
3. 書名 平和の追求	

1. 著者名 谷口将紀・水島治郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 NIRA総合研究開発機構	5. 総ページ数 101
3. 書名 経済・社会文化・グローバリゼーション	

1. 著者名 早川誠・野口雅弘・山本圭・高山裕二他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 よくわかる政治思想	

1. 著者名 Yoshie Kawade	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Bloomsbury Academic	5. 総ページ数 25
3. 書名 Liberty and the Rule of Law," in A Cultural History of Democracy, vol. 4	

1. 著者名 村上陽一郎・藤原辰史・北原和夫・杉田敦ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 295
3. 書名 コロナ後の世界を生きる	

1. 著者名 坂本治也（編集）・石橋章市朗（編集）・山口航・若月剛史・善教将大・飯田健・丹羽功・秦正樹・濱本真輔・待鳥聡史・小林悠太・宗前清貞・犬塚元・井上彰・吉沢晃・西川賢・曾我謙悟	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 240
3. 書名 ポリティカル・サイエンス入門	

1. 著者名 日本アーレント研究会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 430
3. 書名 アーレント読本	

1. 著者名 早川誠、飯田文雄、西山隆行、津田由美子、浪岡新太郎、網谷龍介、渋谷謙次郎、月村太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 297
3. 書名 多文化主義とデモクラシー	

1. 著者名 谷口将紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 322
3. 書名 現代日本の代表制民主政治 有権者と政治家	

1. 著者名 谷口将紀・宍戸常寿	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 251
3. 書名 デジタル・デモクラシーがやってくる！	

1. 著者名 小川有美・宮本太郎・水島治郎・網谷龍介・杉田敦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 かわさき市民アカデミー	5. 総ページ数 231
3. 書名 社会のためのデモクラシー：ヨーロッパ社会民主主義と福祉国家	

1. 著者名 Makoto Hayakawa (Marianne Kneuer (ed.), Helen V. Milner (ed.) et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Columbia University Press	5. 総ページ数 290
3. 書名 Political Science and Digitalizaion: Global Perspectives	

1. 著者名 犬塚元	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 261
3. 書名 ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	

1. 著者名 谷口将紀、水島治郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 208
3. 書名 ポピュリズムの本質	

1. 著者名 佐々木毅	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 民主政とポピュリズム	

1. 著者名 杉田 敦、押村 高、田村 哲樹、五野井 郁夫、千葉 眞、白川 俊介、前田 幸男、高橋 良輔、山崎 望	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 228
3. 書名 デモクラシーとセキュリティ	

1. 著者名 社会思想史学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 社会思想史事典	

1. 著者名 上神 貴佳、三浦 まり	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 270
3. 書名 日本政治の第一歩	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	川出 良枝 (Kawade Yoshie) (10265481)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授 (12601)	
研究 分担者	杉田 敦 (Sugita Atsushi) (30154470)	法政大学・法学部・教授 (32675)	
研究 分担者	犬塚 元 (Inuzuka Hajime) (30313224)	法政大学・法学部・教授 (32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上神 貴佳 (Uekami Takayoshi) (30376628)	國學院大學・法学部・教授 (32614)	
研究分担者	尾野 嘉邦 (Ono Yoshikuni) (70598664)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	川崎 修 (Kawasaki Osamu) (80143353)	立教大学・法学部・教授 (32686)	
研究分担者	早川 誠 (Hayakawa Makoto) (80329010)	立正大学・法学部・教授 (32687)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関